

第二章活用事例

「未来に生きるまち、東京」

― 後藤 新平 ―

小学校三・四年生版

「心しなやかに」 p.78
「新しいやりに」 p.85

【主題名】 郷土を愛する心

第三学年及び第四学年 4-⑥

「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」

【ねらい】 郷土の歩んだ歴史を知り、郷土への愛着を深め、大切にしようとする態度を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》三・四年生の時期の児童は、生活、遊びの活動範囲が広がり、地域の行事や祭りへの参加など、地域との関わりも増えてきます。社会科の学習を通して、郷土への知識・理解も深まります。今ある生活は、郷土の発展のために力を尽くした先人の努力のためのものであることに気付けるよう指導していかねばなりません。また、郷土に誇りや愛着をもって、積極的に関わろうとする態度を育てることが大切です。



「東京とはどのようなところですか。」

○東京に関するイメージを話し合わせましょう。

○「心しなやかに」 p.34 ～ p.35 の震災復興公園の写真を紹介し、どのような目的でつくられたのかを話し、資料への興味・関心を高めます。

導入

○教師が「未来に生きるまち、東京」を読み聞かせましょう。



「震災後の人々の様子を見て、後藤はどのようなことを思ったのでしょうか。」

○変わり果てた東京の様子に悲嘆にくれながらも、前向きに生きようとする人々の姿を見て、復興への決意をするに至るまでの後藤の気持ちを捉えさせましょう。



中心発問

「激しいやりとりの中で、後藤はどのようなことを考えたのでしょうか。」

○激しいやりとりに弱気になりかけながらも、心を奮い立たせる後藤の葛藤する気持ちについて話し合わせ、未来の東京のために力を尽くそうとする後藤の郷土を思う心情を捉えさせましょう。

展開

《評価》 郷土を思い説得を続ける後藤に共感することを通して、郷土を愛し、大切にしようとする心情をもつことができたか。



「新しくなっていく東京のまちを見つめながら、後藤はどのようなことを思ったのでしょうか。」

○後藤の復興計画の内容をまとめたものを黒板に提示しましょう。
○自分の計画が実現したという満足感だけでなく、未来の東京を担う人々への後藤の思いも捉えさせましょう。

○導入で話し合った東京のイメージを振り返り、後藤の成し遂げた計画が今の東京をつくっていることを確認しましょう。



「あなたの自慢したい東京のよさは、どのようなことですか。」

○手紙形式のワークシートに、「未来の東京人」の一員として、後藤新平に伝えたい東京のよさを記入させましょう。

○教師自身が、自分の郷土に寄せる思いを語りましょう。

終末

○「心しなやかに」 p.28 ～ p.29 「故郷の空」を読み、授業のまとめとして「新しいやりに」を話し合わせよう。

【資料の特徴】「未来に生きるまち、東京」は、関東大震災の被害から東京の復興に向けて力を尽くした後藤新平の姿を描いた資料です。わたしたちの住んでいる東京の景観が、九十年前の後藤新平の復興計画に基づいてつくられ、その思いが、災害に強い都市として今も息づいていることに驚かされます。郷土への愛と都市づくりへの強い信念に燃えた後藤新平の生き方を通して郷土を愛する心を深めることができる資料です。

板書例

未来に生きるまち、東京 ― 後藤 新平 ―

東京

- 人口が多い。家や道路が多い。
- 日本の中心。政治 文化 経済
- なんでもある。便利なまち。

後藤の
写真

震災後
の東京
の写真

しんさい後の人々の様子を見て、後藤はどのようなことを思ったのでしょうか。

- これから、どうしていけばいいのだろうか。
- みんな、前を向いて生きているんだな。
- このような時こそ、人々のために役に立たなければ。

はげしいやりとりの中で、後藤はどのようなことを考えたのでしょうか。

- お金も時間もどのくらいかかるかわからない。この計画は無理なのか。
- どうして分かってくれないのか。
- 未来の東京を、さい害から守りたい。
- 二度とこんな悲げきを起こしたくない。
- 東京を世界にはこれるまちにしたい。
- 今だからこそ、できる限りのことをしよう。

話し合いをする
後藤新平の挿絵

新しくなっていく東京のまちを見つめながら、後藤はどのようなことを思ったのでしょうか。

- ・広い道路づくり
- ・土地の区画整理
- ・ふっこう公園
- ・鉄筋でできた橋

- 計画が実現できてよかった。
- 協力が得られてよかった。
- もっと住みよいまちにしていきたい。

後藤新平さんへ

- たくさんの方が住んでいてぎやかなまちになったよ。
- 公園や遊園地など、遊ぶところもいっぱいあるよ。
- 建物はきれいで頑丈にできている。
- 安全に生活できるよう守ってくれている。

《評価》 郷土の歩んだ歴史を知り、郷土への愛着を深め、大切にしようとする態度を育てることができたか。